

CCRCとは

Continuing Care Retirement Community

継続的ケア付き高齢者共同体

CCRCと老人ホームの違い

●老人ホーム

健康に不安を覚えた方が入居し、介護サービスを受ける場所との考え。

●CCRC

高齢者が元気な内に入居し、趣味やスポーツなどを楽しむ設備があり、自分が持つ知識や技術を施設内や地域で活かしつつ、生きがいを持ちながら安心して暮らせる共同体を目指す。必要に応じ、介護・医療サービスを受ける施設や制度を持っている。

CCRCがそもそも目指したところ

- まち・ひと・しごと創生本部は、平成26年に第二次安倍改造内閣により設置され、同本部は、日本の急速な少子高齢化の進展に対応し、人口減少に歯止めをかけ、首都圏への人口集中を是正し、地方におけるワーク・ライフ・バランスを確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目指す。
- 上記の一環として「CCRC構想」が取り上げられ、都会から地方へ高齢者が移住することにより、退職後の第二の人生を地方で楽しめるよう政府や地方自治体が支援するとするもの。

CCRCの諸形態 (何を核とするかで変わる)

1. 大学連携型コミュニティ
2. 医療施設を核とするメディカル・ヴィレッジ
3. 農業法人を設立し、農産物の生産と販売
4. 地域包括ケア・システム構築の一環として組込む
5. 既存団地の空き部屋の活用

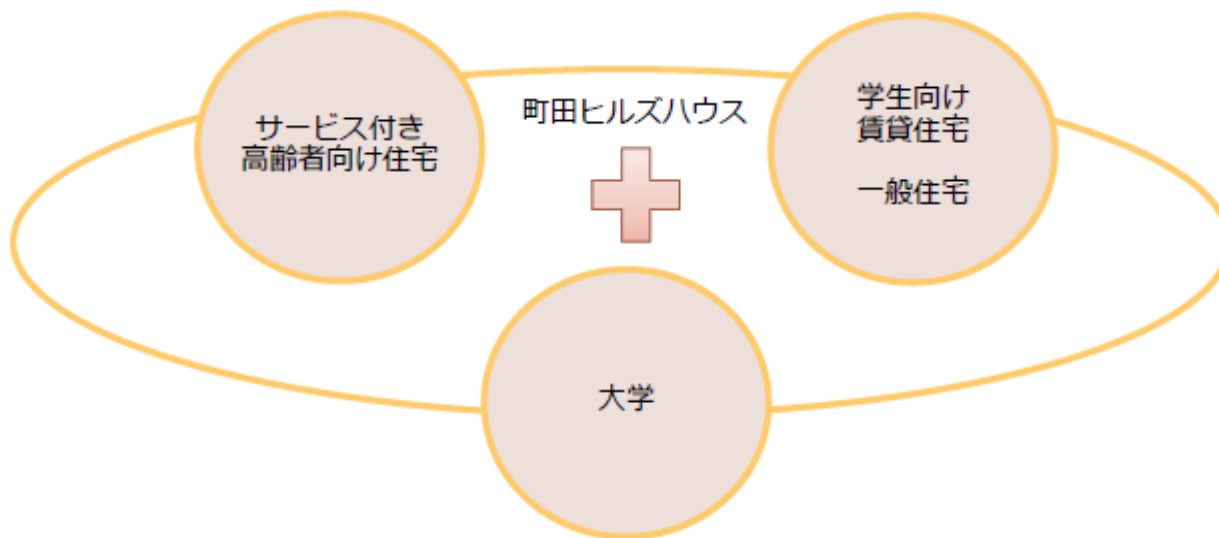
1. 大学連携型コミュニティ

- 米国で発祥のシステムで、必要に応じ継続的・段階的なケアを受けながら生涯学習や社会活動等に参加する共同体で、現在全米で約3,000箇所が存在している。
- メリット
 - ①大学施設(学食、図書館、運動施設等)の利用。
 - ②大学における生涯学習への参加。
 - ②高齢者たちの社会経験を教室で学生たちに講義。
 - ③学生たちとサークル活動、文化祭等学校行事への参加。
 - ④知的刺激や多世代間の交流の促進。
- 日本における現状

次ページ大美林大学の試みの他、広島国際大学において2020年を目途に地方自治体との連携を目指している程度で低調。

町田市にある**桜美林大学**のクラブ・ハウスのある土地を活用し、学生向け賃貸住宅を併設した「サービス付き高齢者向け住宅」を新設する計画。

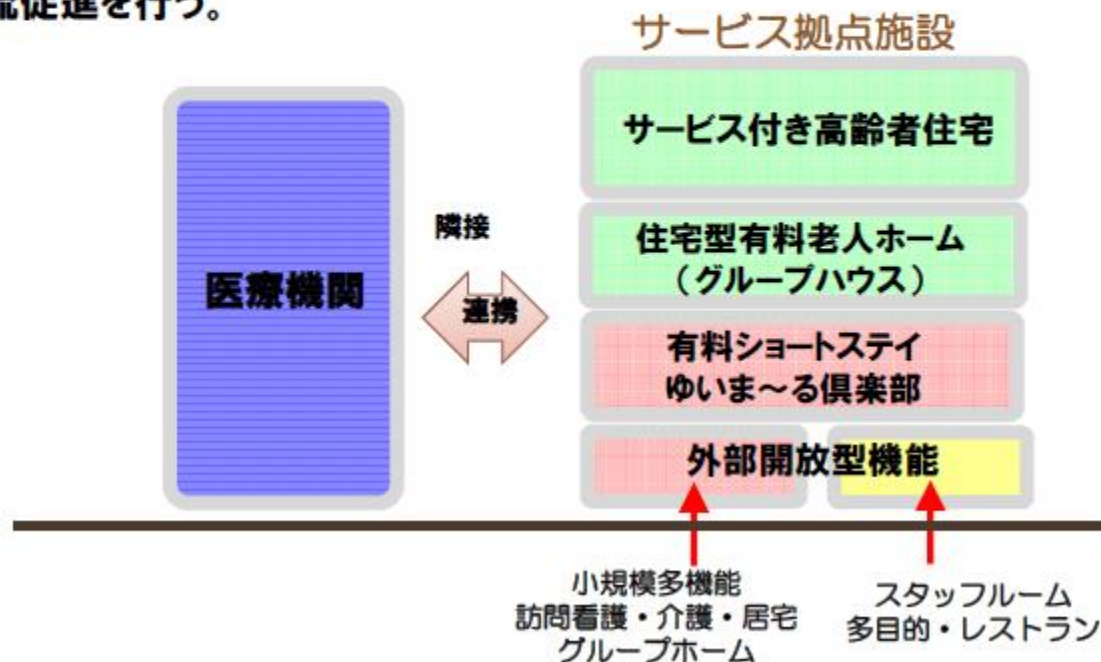
日本初の**日本型カレッジ・リンク**(大学連携型コミュニティ)を目指している。



2. 医療施設を核とするコミュニティ

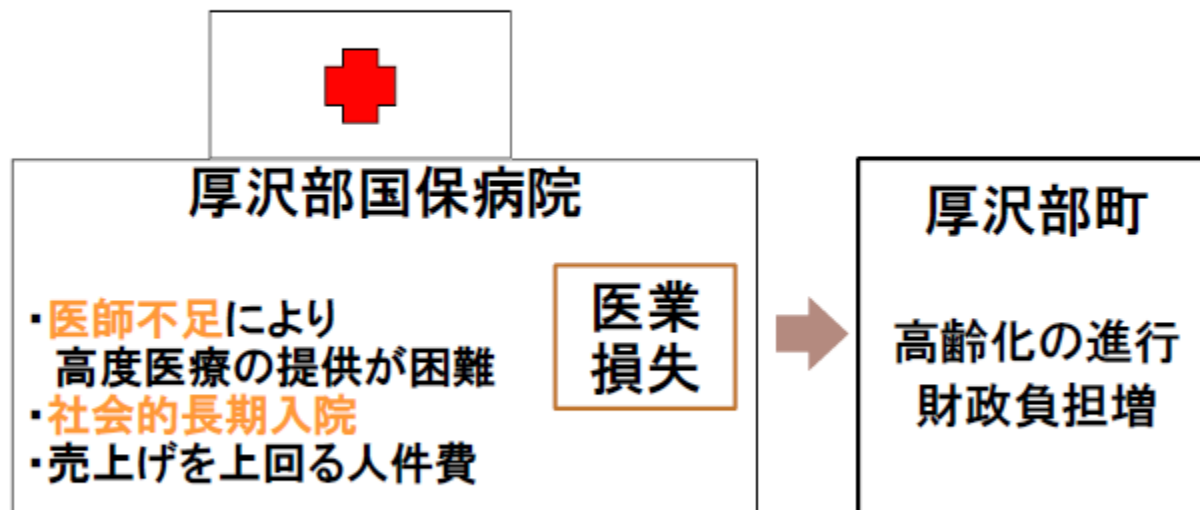
医療機関の隣接地に建設することによって、途切れの無い医療・看護・介護が提供できる。また、療養病床の削減の影響で生まれている医療難民に対して、一時療養・ショートステイと医療連携において対応することが可能となる。

さらに1階部分は外部開放機能を設置することで、介護、生きがい支援を実現し、交流促進を行う。



メディカル・ヴィレッジ(北海道檜山郡 厚沢部町事例)

厚沢部町の課題と目指す方向



行政と介護サービスによる社会的入院の減少
医療・介護・福祉の総合的な地域ケアシステムの構築

厚沢部 <町立病院の再生と有料老人ホームを核としたケアシステム>



温かみのある木の空間



食堂でのライブ

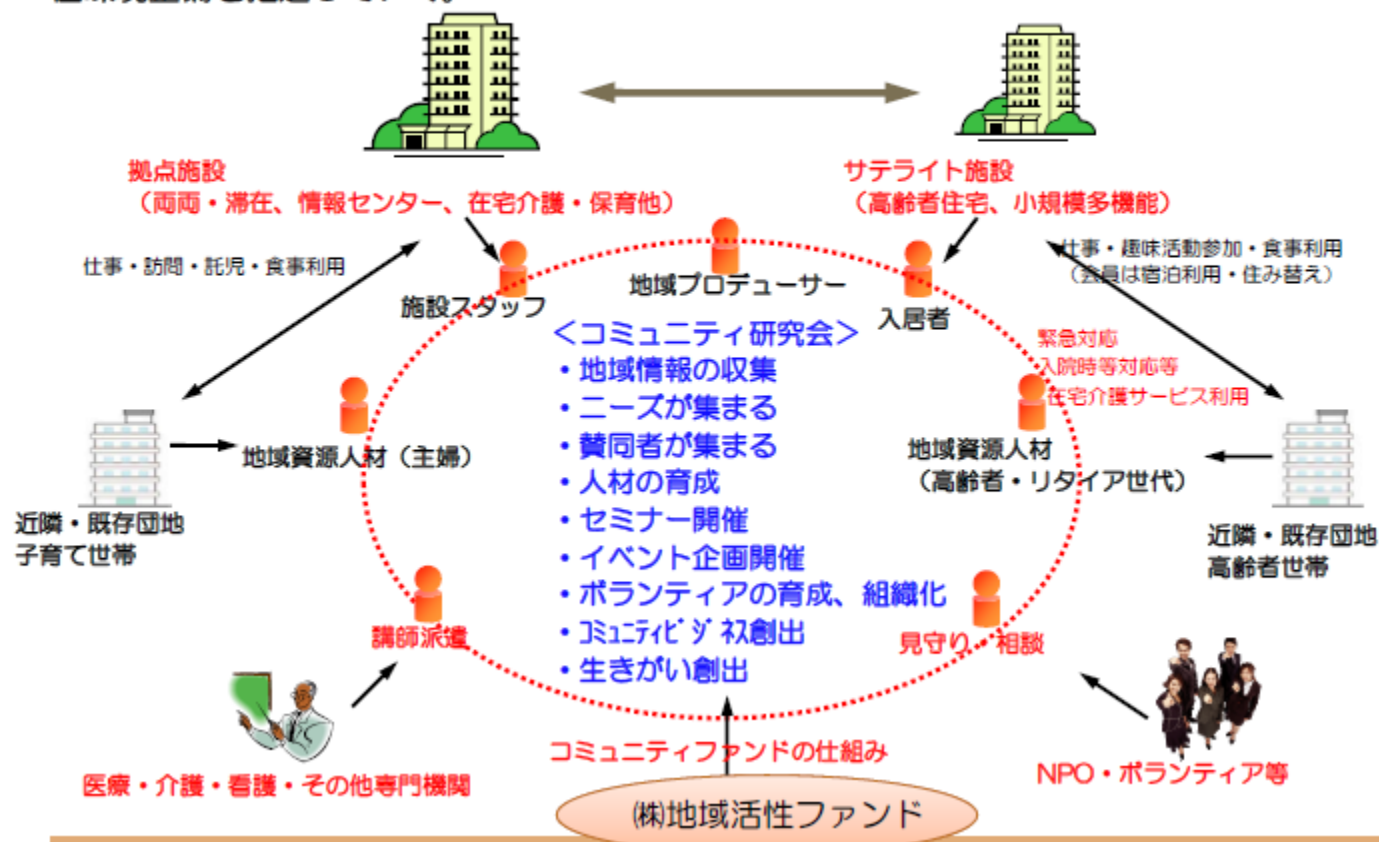


3. 農業法人を設立し、農産物の 生産と販売

- リンゴ、イチゴ等の果実を栽培し、それら生産物の販売のみならず、ジャム等二次加工品の生産・販売をする。
- 当初、農業法人の立ち上げが困難であったり、そもそも農業知識が足りない場合は、近隣農家からの協力・支援を仰ぎつつ、地域での共存・共栄を目指す。
- 現在、国民年金等の年金だけでの生活は困難であり、足りない分は、一日3時間でも4時間でも、楽しみながら働いて生活資金を稼ぐ。

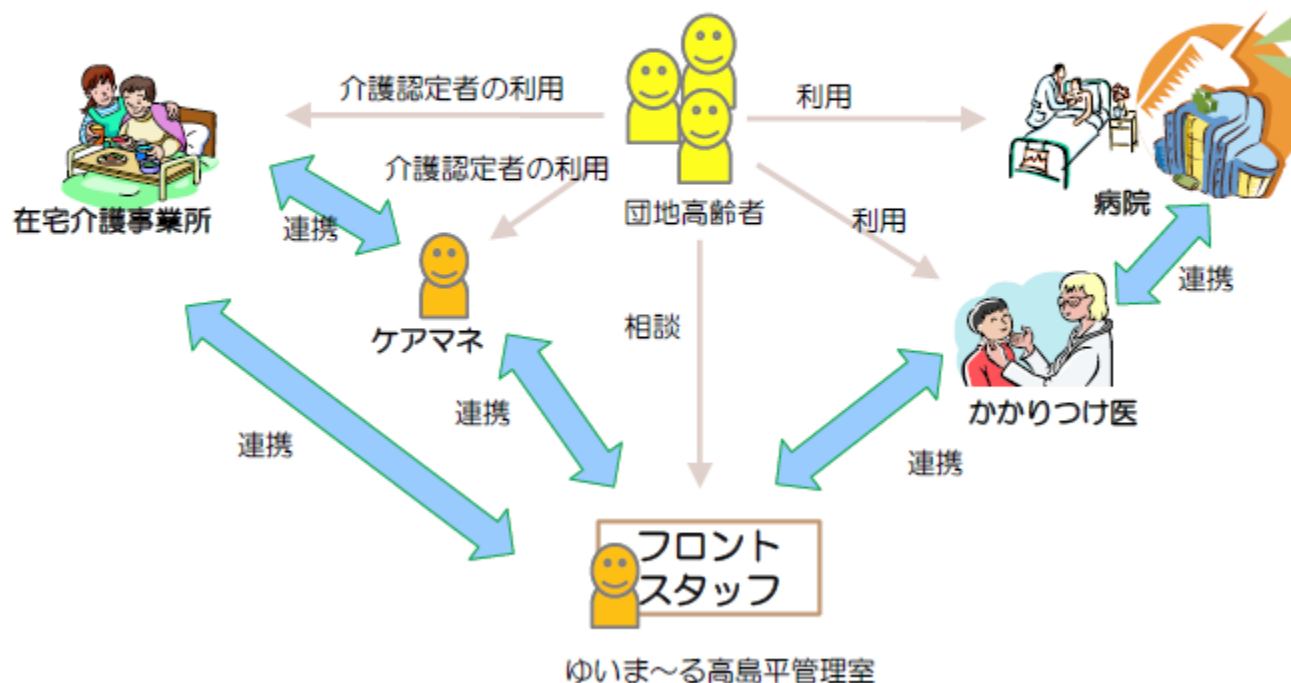
4. 地域包括ケア・システム構築の一環として

地域資源の活用と連携・ネットワークを構築することによって、市民参加型のまちづくり、住環境整備を推進していく。



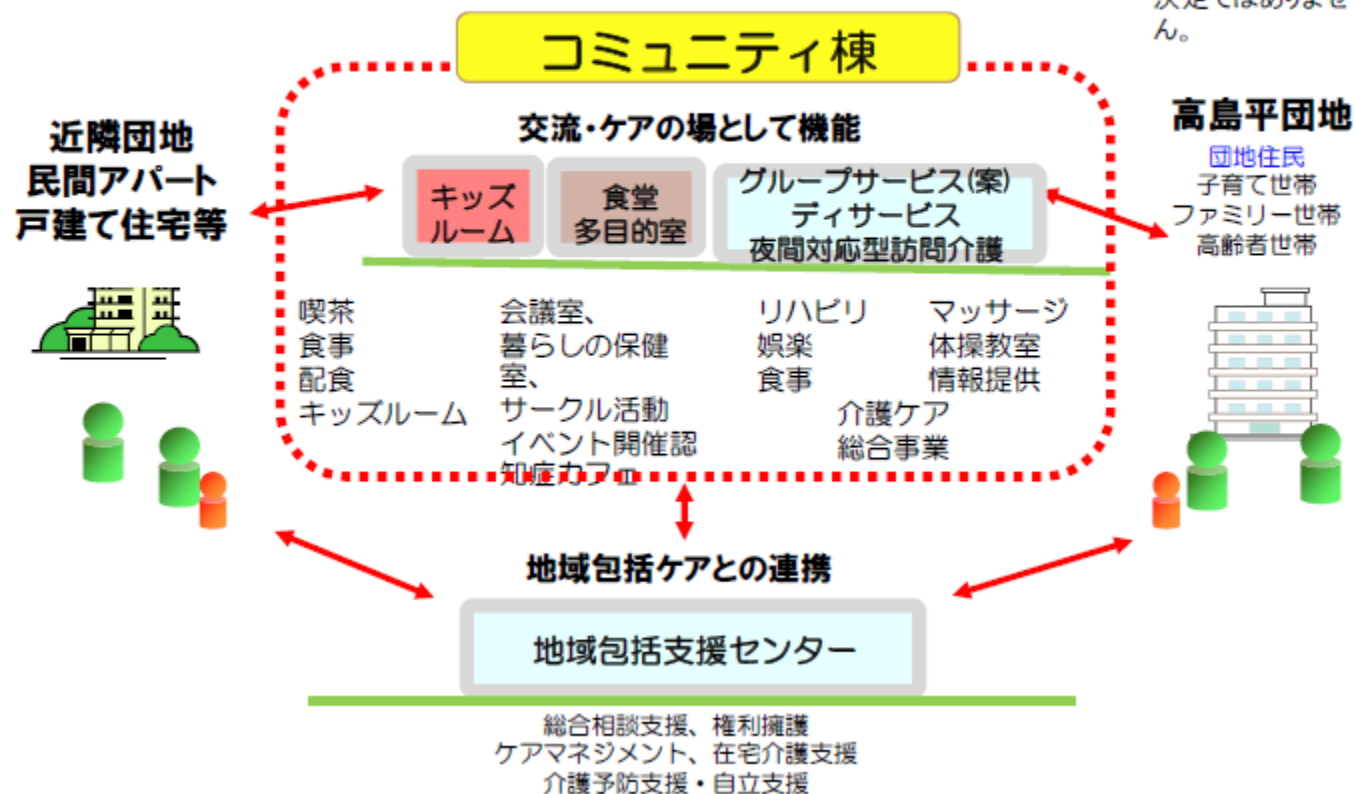
5. 既存団地の空き部屋の活用 (板橋区高島平団地でのケース)

地域の介護事業所、かかりつけ医、総合病院と連携を取り、団地住民に必要な介護サービス、医療サービスを的確に提供。それぞれが役割を担えるようになり、元気な時の生活感や価値観、生活環境、人間関係を維持しながら完成期まで安心して暮らせるネットワークを構築。



高島平団地内も周辺も安心できるケアシステムの場所と
多世代が楽しめるまちづくり

* 構想段階であり、
決定ではありません。



築50年のEVがない4階建の住棟に、EVと階段、廊下を新設。躯体いかし、内外装、設備をリノベーション、ケアの施設とコミュニティの場を増築。地域のコミュニティの拠点を創造。



結論：日本版CCRC成功のカギ

1. しっかりしたコーディネーター又は運営母体の存在
2. 地方自治体の地方創生戦略との連動による助成金の獲得
3. 地元住民との共存、協働
4. 地域包括ケア、仕事づくり、空き家の活用などとの連動
5. 地域組織との連携：自治体、市民、NPO、民間企業、医療機関、教育機関、図書館、公民館、自治会等